

未来世紀
ブラジル



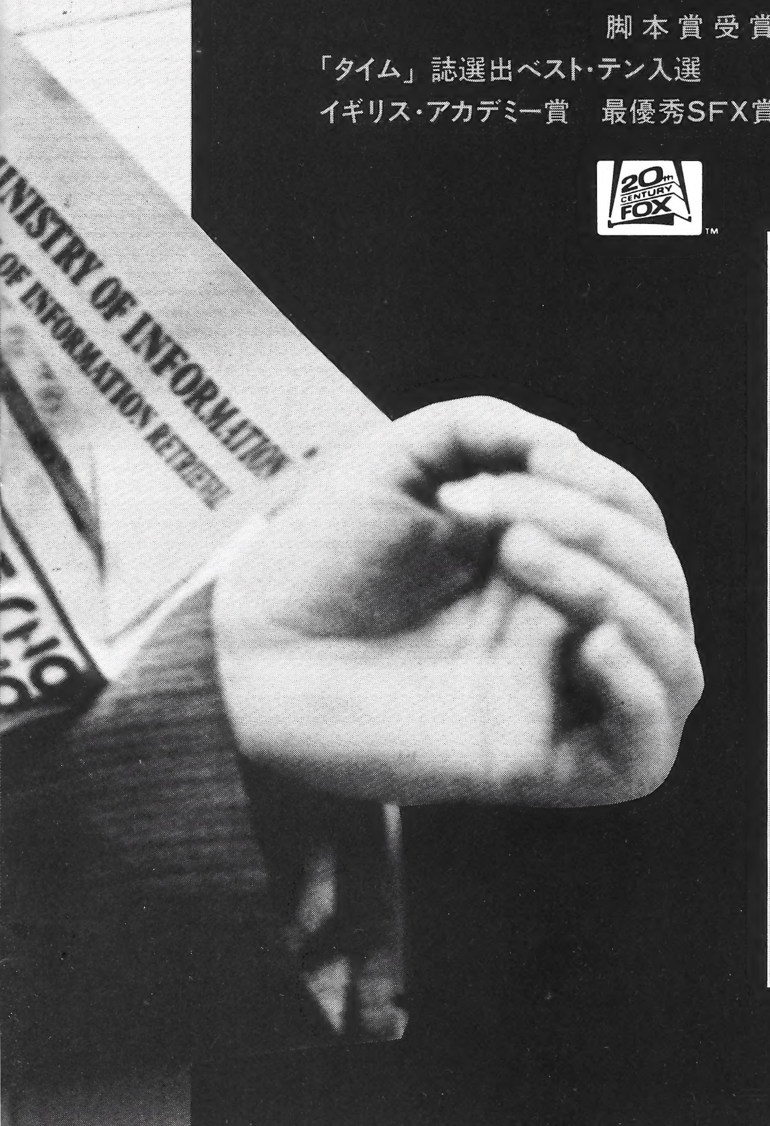


テリー・ギリアム監督作品

未来世紀ブラジル

製作/アーノン・ミルチャン
配給/20世紀フォックス映画

本年度ロサンゼルス映画批評家賞
最優秀作品賞受賞
監督賞受賞
脚本賞受賞
「タイム」誌選出ベスト・テン入選
イギリス・アカデミー賞　最優秀SFX賞受賞美術賞受賞





INTRODUCTION

解説

電子科学の急速な発達で情報化と人間管理の問題はすでに始まっており人間の運命を左右する明日の大きな課題でもある。この映画は近未来の情報社会を舞台に一人の若いサラリーマンが，自由を求めながらも，巨大な情報局の陰謀を知りすぎたため，当局のメカニズムに巻きこまれ犯罪者の烙印を押され抹殺されて行く恐るべき世界を描くハードSFの傑作である。

チャップリンの「モダン・タイムス」や，フリッツ・ラングの「メトロポリス」といった名作にせまるダイナミックで漸新な衝撃の映像，鋭い風刺と，文明批評はセンセーションを起こしている。ブラックな笑い，戦慄的な恐怖，夢と幻想がシュール・レアリズム（超現実主義）の手法で，現実と交錯するイメージの大胆さに目を見張らせ，今日の前衛芸術が戦斗的な激しさで到達した最高のビジュアル・ショックがここにある。

すでにロサンゼルス映画批評家賞で，作品賞，脚本賞，監督賞を受賞し，アカデミー賞でも脚本賞と美術賞候補となり，「タイム」誌のベストテンにも選ばれている。

監督のテリー・ギリアムは，イギリスの人気ヒットTV「モンティ・パイソン」シリーズのレギュラー・ライターで，「ジャバーウォッキー」「バンデットQ」で演出に進出し，天才的な映像感覚で世界を驚かせた。

脚本はギリアムが劇作家トム・ストッパードと俳優であり作家のチャールズ・マッキオンと共同で書いたオリジナルで，ロジャー・プラットが撮影。意表をつく美術はノーマン・ガーウッドで，製作費2,000万ドルの大半を投入したみごとなセットが話題を呼び，SFXは「インディ・ジョーンズ／魔宮の伝説」「コナン・ザ・グレート」「フラッシュ・ゴードン」の名手ジョージ・ギブスが担当している。

なお，音楽はマイケル・ケイメンが担当し，30年代に大ヒットし，ザビア・クガートの代表曲となったラテン・ミュージックの名曲〝ブラジル〟がみごとな効果をあげて使用され，映画の題名はここからとられた。

製作のアーノン・ミルチャンは，まだ30代のプロデューサーで「キング・オブ・コメディ」「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」，近く20世紀フォックスが配給するSF大作「レジェンド／光と闇の伝説」で意欲的な新鋭製作者として注目を浴びている若手である。

主人公のサムを演じているジョナサン・プライスは，「ブレーキング・グラス」で日本にも紹介されたイギリスの演技派。彼の前に神出鬼没する鉛管修理工の扮装をしたテロリストを演じているのは，「ゴッドファーザーPARTⅡ」と「レイジング・ブル」で2度アカデミー演技賞を受賞しているスーパースター，ロバート・デ・ニーロ。

サムが夢の中であこがれている美しい天使のような女性と，トラック運転手をしていて無実の罪におとしいれられるボーイッシュなジルの2役を演じているのは，〝Chud〟という映画でデビューし，これが2作目のアメリカの新進美人女優キム・グライスト。

そのほか，サムの上役に「炎のランナー」「グレイストーク」「バンデットQ」の名優イアン・ホルム。サムの友人で最後は彼を裏切ることになる同僚ジャックに，「モンティ・パイソン」シリーズの脚本家であり出演もし，「バンデットQ」では主演したマイケル・パリン。

整形美容狂いのサムの母アイダは，「ヒンデンブルグ」「ファミリー・プロット」「バンデットQ」のキャサリン・ヘルモンド。

ほかに「ピンクフロイド／ザ・ウォール」「コットン・クラブ」のボブ・ホスキンズ。「ラ・マンチャの男」のイアン・リチャードソン。「バンデットQ」「フランス軍中尉の女」のピーター・ボーンなどイギリスの性格俳優が脇をかためている。

撮影はロンドンのリー・インターナショナル・スタジオを本拠地に，ロンドンのドックランドにある製粉所，南部にあるロンドン発電所，ケントの製油所，メントモア，バッキンガムシャーにあるかつてのロスチャイルド邸，パリ郊外のパレ・ダブラキンス団地などでロケされた。

夢のシーンに登場する日本のサムライや，おたふくの面をつけた奴隷など，ユニークな映像のおもしろさも格別だが，壮烈なカー・アクションや眼もくらむビル大爆破，大地が噴火山のように引き裂かれビルが飛びだしてくる幻想シーン，テロリストたちの銃撃戦など，スペクタクルな見せ場は，娯楽映画としても興奮させ，アクションもふんだんに盛りこまれている。（1985年度作品／ドルビー・ステレオ／カラー作品／2時間23分）







STO

物



近未来のある国――そこでは個人のプライバシーはすべて政府のコンピュータに管理され，情報省が大きな権限を持って人々を支配していた。一方で，反体制派はテロ行為に走り，姿なきテロリストによる爆弾騒ぎは日常茶飯事だった。

クリスマスの日――情報省の一画でちょっとした事故が起きた。ある役人が仕事場に迷いこんで来たハエを叩きつぶしたのだが，ハエの死体はコンピュータの中に落ち，打ち出していたTUTTLEの文字をBUTTLE に変えてしまったのだ。この小さなミスが事件の発端だった。

ダウンタウンに住む靴職人のバトルの家に突然，情報剝奪局の役人が乗り込んで来て，バトルを逮捕した。バトルには何の覚えもないことだったが，それもその筈，例のミスがテロリストの鉛管工タトルとバトルとをとりちがえさせてしまったのだ。役人はバトル一家のとまどいをよそに，バトル夫人に，尋問費用の請求書を手渡して去っていった。その一部始終を階上に住むトラック運転手の若い娘ジルが見ていた。ジルは天井を修理に来たセントラル・サービスの男の口から，この逮捕が誤認に基くものだと知った――。

〝真実は自由をもたらす，情報省は自由の味方〟とものものしいメッセージをかかげた情報省。サム・ローリーはその記録局に働くサラリーマン。仕事をさぼっては古い映画に興じる部下たちの中でただ一人部長のカーツマンが片腕と頼む有能な男だが，機械化された仕事にうんざりしていた。クリスマスの朝，サムは羽根を持ったナイトとなって大空を自由に飛びかう夢を見ていた。サムを呼ぶのは薄いベールに包みこまれた天使のように美しい一人の娘。サムは彼女を助けようと，飛んでいく――。そこで目が覚めた。トラブルに弱り切ったカーツマンが電話でたたき起こしたのだ。

出勤したサムは，局の玄関で一瞬，夢で会った女の幻を見たような気がした。それは誤認逮捕の申請に来ていたジルだった。お役所仕事で窓口をたらいまわしにされていたジルは，怒って，監視用ロボットをたたき壊して出ていってしまった。

カーツマンのトラブルは例のタトルとバトルの取り違えに起因するものだった。サムは手早くキー・ボードを叩いて問題を解決した。そんなサムに，カーツマンは情報剝奪局への栄転を知らせた。サムの母，アイダが手を回したのだ。アイダの死んだ夫は，情報省次官ヘルプマンの旧友で，そのコネを利用したのである。だが，サムにはその気はなかった。

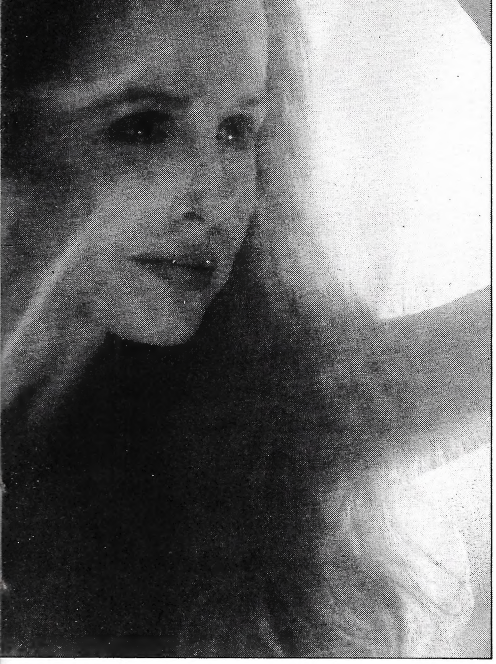
サムは栄転を断わろうと，美容整形を受けているアイダを訪ねたが，アイダはとりあわなかった。サムの友人ジャックは剝奪局でエリート・コースを歩んでいるのだ。サムならそれ以上の昇進ができる。サムはなおも母を説得しようと，高級レストランについていった。同席したのはアイダの友人で，やはり美容整形にこっているテレン夫人と，その娘のシャーリー。テレン夫人は，若返りの併発症とかで包帯をしている。二人の婦人は別々の医師にかかっていて互いにライバル意識を持っているのだ。いい年をして歯に矯正用ブリッジをしたシャーリーは「塩？こしょう？」としかいえない。どうやら二人の夫人連はシャーリーとサムを一緒にしようとしているらしい。メニューが配られた。サムはステーキを注文したが，ウェイターは番号で注文しなければ，と頑として受けつけない。しかも運ばれてきた食事はどれも同じような丸い形をして色が違うだけ！と，突然，爆弾が破裂した。だが，食事はそしらぬ顔で続いていく……。

サムは再び夢を見ていた。あの娘の元へ飛んでいこうとすると，突如，地中からビルが噴出して娘を取り囲んでしまった！目が覚めると，暖房装置が故障していた。セントラル・サービスに電話をしても，人員不足とテープが繰り返すばかり。そんなサムの窮状を救ったのは，どこからともなく現われた，モグリの鉛管修理工タトル！当局がテロリストとして追っている人物だ。タトルが修理にかかろうとするとセントラル・サービスから修理工が二人来たが「27ーBの書類を持っているか」と聞くと，青くなって帰っていった。タトルは修理を終えると，ビルに渡したロープを伝って闇の中へ消えた！

カーツマンのトラブルはまだ続いていた。バトルの尋問費用を取り過ぎたというのだ。サムは小切手をバトル夫人に届けに行く破目になった。荒廃したバトル家の有様は，サムにショックを与えたが，それ以上にサムは，そこで見かけたジルの姿に衝撃を受けた。

ジル・レイトン――トラックで走り去った夢の女の名前を知ったサムは，コンピュータでデータを呼び出そうとした。しかし，ジルの情報は情報剝奪局の機密扱いになっていた。しかも，剝奪局への栄転はカーツマンが握りつぶしていた。帰宅途中，サムは夢の続きを見た。ビルの間から，娘を探すサムの前にはい出てくる不気味なおたふくの仮面の顔，顔，顔――。その中にはバトル夫人もいる。

部屋に帰ると，いつかの修理工が，室の中を無茶苦茶にひっかきまわしていた。正式の書類をもって復讐に来たのだ。ワイヤーやダクトが散乱する部屋でサムは再び夢の中へ落



R Y

語



ちていった。サムの前に鎧武者が立ち塞がった。ようやく倒した武者の顔は――サム自身!!。

歌うメッセージ・ガールがアイダの手術成功を祝うパーティーを伝えたので，サムは母の家へ出かけた。ジルのことを知るために，剥奪局への栄転をヘルプマンに頼む気になっていたのだ。

ヘルプマンはサムの頼みを快諾し，サムは剥奪局へ勤めることになった。独房のようなせまいオフィスを与えられたサムは，隣室のライムにジルの情報を呼び出すように頼んだ。待つ間に夢を見た。空へ檻に入れられた娘を追っていこうとすると地面が人の形となって盛り上りサムの足をひっぱる。その顔はカーツマンのものだ。サムはジルの情報を入手すると，尋問責任者の412－L に会いにいった。病院のようなフロアにいた412－L とはジャックのことだった。ジャックは，ジルは，バトルの誤認逮捕の目撃者として，当局が追っていると言った。自分たちのミスを隠蔽するために，ジルをテロリストとして逮捕する手筈だったのだ。サムは，ジルの件は自分に任せるようにジャックを説き伏せると，ジルのファイルを持って飛び出していった。と，玄関の所にジルが見える。相変わらず窓口をたらい回しにされているのだ。サムは保安部員に囲まれたジルを，危うく，ジャックに借りた服のバッジの威力で欺いて救け出すと，そのまま外に連れ出した。だが，風がジルのファイルを吹きとばし，サムが集めている隙に，ジルはトラックを発進させてしまう。あわてて飛び乗るサム。しかし，ジルは自分の身に何が起こっているかわからず，サムを振り払おうとするばかり。それでも，車の外にへばりつき,「I LOVE YOU」「信じて」とくり返すサムにジルも徐々に心を許していった。

ジルは鉄工所で小さな小包を受け取ると街へ戻っていった。サムはその包みを爆弾だと思いこんでしまった。途中，警察が検問をしていた。強行突破すると，追ってくるパトカーを振り切って逃げる。二人はデパートの人混みにまぎれこもうとした。デパートの中でテレン夫人とシャーリーに偶然出会った。テレン夫人の併発症はますますひどくなっている。

その時，爆発が起きた／倒れる人々／

ジルの小包?いや，その包みは役人への賄賂だった。ホッとする間もなく，サムは駆けつけた警官に逮捕されてしまった。幸か不幸か，サムは釈放されたものの，ジャックが不気味なせりふを吐いた。上層部は，このミスの一件を重大事件に仕立て上げるつもりらしい。帰宅すると，またもや二人組の修理工が来ていて，温度調節を狂わせ，部屋中を凍らせていた。抗議すると，修理の為に強制退去命令が出たという。あくまで仕返しをする気だ。と，再び，タトルが現われ，外からダクトを調節すると部屋をくそまみれにして去って行った。少し溜飲を下げたサムの前に，ジルの姿が映った。

サムは，入院して留守になった母の屋敷にジルと隠れた。ふと思いついて局へ戻るとヘルプマンの室に忍び込みジルのデータに死亡と打ち込んだ。これでジルは安全だ。安心して帰ったサムの目の前に，あの夢の娘――それはジルがかつらをかぶった姿だった。サムはようやく，愛する娘と一つになった……。

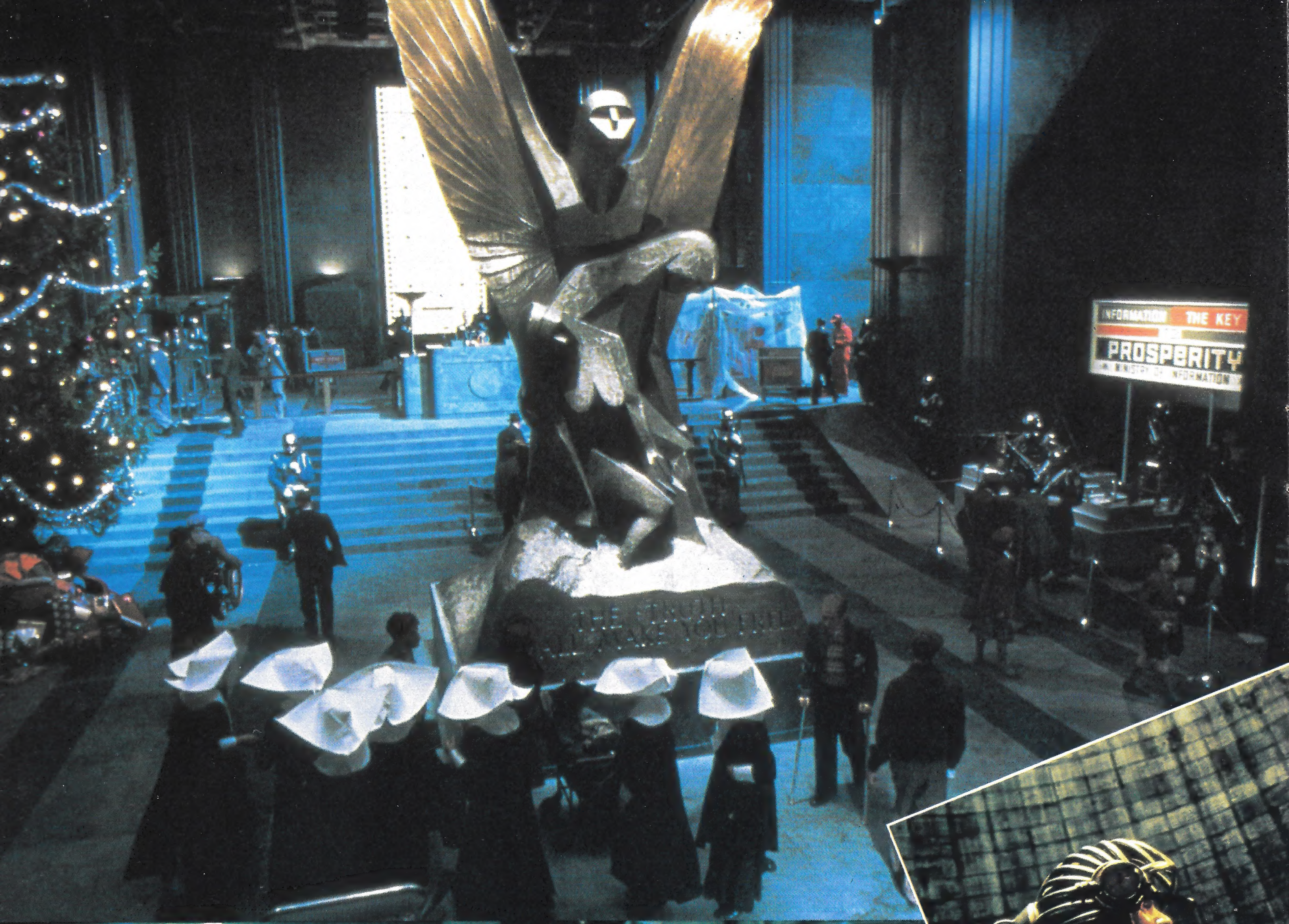
だが――翌朝，二人は保安部に逮捕されてしまった。ズタ袋をかぶせられたサムは尋問を受ける。一人乗りの自動車を壊されたこと，バトル夫人宛の小切手に部長の代筆をしたこと,すべてがサムの罪状に数えあげられた。独房をヘルプマンが訪れ，ジルが処刑されたことを告げた。絶望するサム。

サムの処刑の日が来た。巨大なドームの中央の椅子に縛りつけられたサムの処刑を担当するのは，おかめの面をつけたジャックだ。

その時，天井からタトルと仲間が急襲し，サムを救け出した。剥奪局のビルを爆破して逃げるサムとタトル。だが，タトルは吹きつける書類に巻かれ跡かたもなく消失した。サムは逃げ続け，アイダの葬儀中の教会にやって来た。若返りに成功したアイダは古い肉体を盛大に葬っていたのだ。若やいだ顔でふり返る母の顔はジル!?保安部員に取り巻かれ，思わずサムが棺をひっくり返すと，汚物のような肉塊が流れ出した。サムはさらに逃げる／そこは走るトレーラーの中，運転席にはジルが微笑んでいる／ジルと二人を乗せて車は，緑の美しい田園の中へと走っていく……。

それは手術で廃人にされたサムの夢の中の出来事だった。サムの耳には，いつもきこえていた〝ブラジル〟の歌が流れてくる。

――心はずむ六月を過ごし
こはく色の月の下
ふたりで「いつかきっと」と
ささやいたブラジル
ぼくたちはここでキスしからみあった
でもそれは一晩のこと
朝がくると
君は何マイルも離れ
ぼくに言いたいことが山ほどいっぱい
今，空は暮れなずみ
ふたりの愛のときめきが甦る
たしかなことは一つだけ
…戻るよ,ぼくは想い出のブラジルに…


INFORMATION THE KEY
PROSPERITY
MINISTRY OF INFORMATION




AIRWAYS





TERRY GILLIAM

監督・脚本／テリー・ギリアム



痛烈な風刺と文明批評で近未来の管理社会をとらえ大反響を起こしたギリアムだが，豊かなイマジネーションと，めくるめくショッキングな映像の漸新さは、あらためてこの天才を世界に認めさせた。

ギリアムは40年11月22日，ミネアポリス生まれ。

サン・フェルナンド・バレーの高校に通い，後にパサディナのオキシデンタル・カレッジに通った。ハーベイ・カーツマンが発行しているニューヨークの〝パルプ・マガジン〟のマンガにあこがれ，大学最後の年自分の作品を送ったところ，気に入ったという返事をもらいニューヨークに行く決心をして，とる物もとりあえず出発しカーツーマンと会った。当時のそこには，彼が子供の頃から崇拝していた有名なマンガ家がごろごろしていた。

カーツーマンは同誌の編集アシスタントを探しており，ギリアムはその仕事を得ることになる。続く三年間はニューヨークの生活が続き，夜になるとシティ・カレッジの映画セミナーにも通った。

その後ギリアムはニューモークに愛想をつかして，ヨーロッパに行く決心をした。〝エスクアイア〟に時折寄稿してはイタリア，ドイツ，フランスを回っていた。

しかし，彼のキャリアが「モンティ・パイソンズ・フライング・サーカス」の開始とともに花を咲かせたのはイギリスであった。

パイソンと組んだギリアムの映画には「モンティ・パイソン/アンドナウ」，「モンティ・パイソン／ホリー・グレイル」，「モンティ・パイソン／ライフ・オブ・ブライアン」，〝The Meaning of Life〟(ギリアムは第二班の監督)があるが，すべて興行的にはヒットした。

「ジャバーウォッキー」が彼の最初の単独作品だが，映画作家としての彼の名を高めたのは何といっても，「バンデッドQ」だった。

ARNON MILCHAN

製作／アーノン・ミルチャン

まだショウ・ビジネスでのキャリアは6年という30代の若いイスラエル人のプロデューサーだが，製作費3,000万ドル級予算の超大作を連発，ことにセットに凝って映画美術のすごさは，彼のプロデュース作品の特色だ。「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」の30年代ニューヨークを再現した映画美術，近く20世紀フォックスが配給する3,500万ドルの「レジェンド／光と闇の伝説」の魔界のすごい美術とＳＦＸも大評判になっている。

「未来世紀ブラジル」でのＳＦＸと未来世界の都市のセットも，ミルチャンならではの湯水のように大金を投入した厚みのあるすばらしさだ。

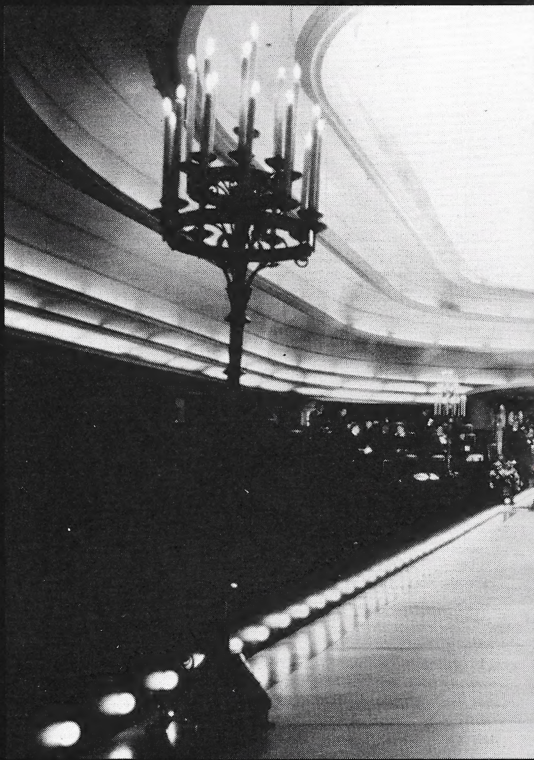
イスラエルの化学工業で成功して巨万の富を築いたあと，ショウ・ビジネスに進出。

彼はテレビのミニ・シリーズ〝Masada〟の財政保証人かつプロデューサーとして活躍し，イギリス映画〝The Medusa Touch〟によって初めて映画製作に乗り出した。

それ以後彼は14本の映画と四つの舞台をプロデュースしている。その中には，マーチン・スコシージの「キング・オブ・コメディ」，フランス映画〝L' Imprecateur〟，〝Stripper〟，〝Black Joy〟などがある。

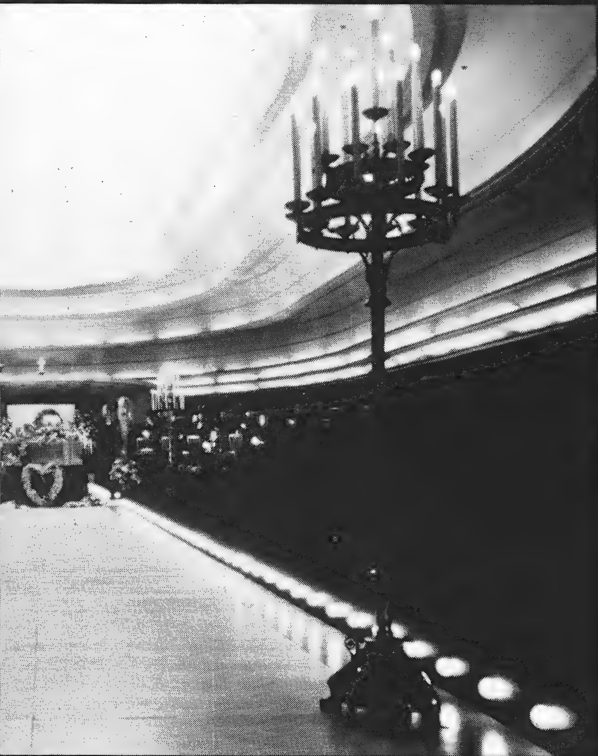
舞台のプロデュースではパリで上演されたロマン・ポランスキー主演の「アマデウス」が有名。

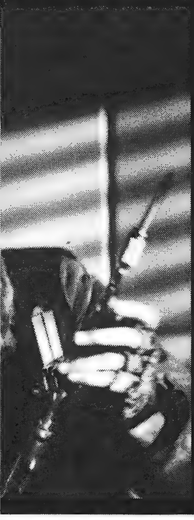
準備中の作品にはテリー・ギリアムの次回作〝The Improbable Adventures of Baron Munchausen Ⅰ and Ⅱ〟がある。

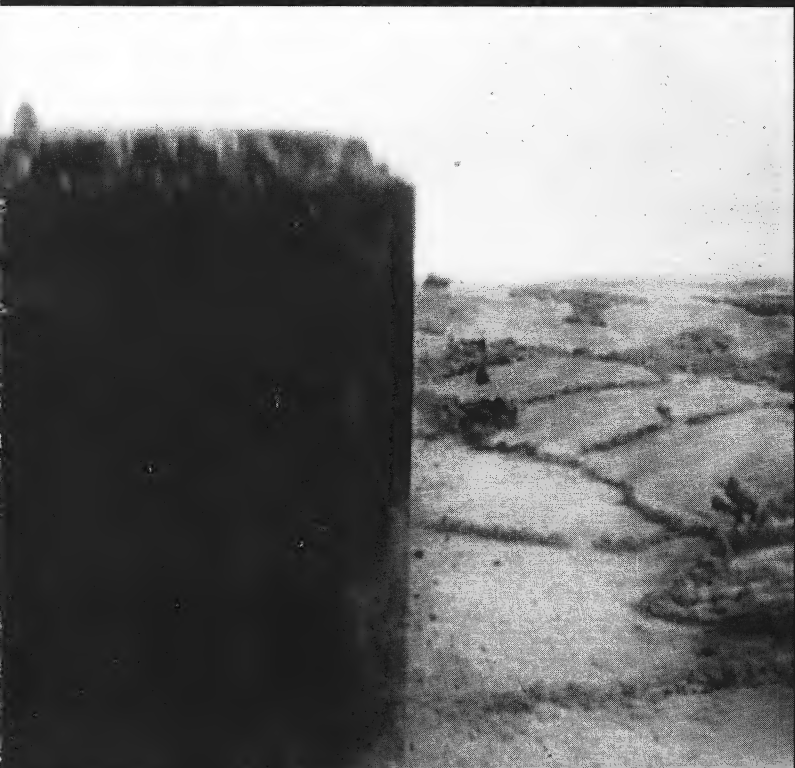






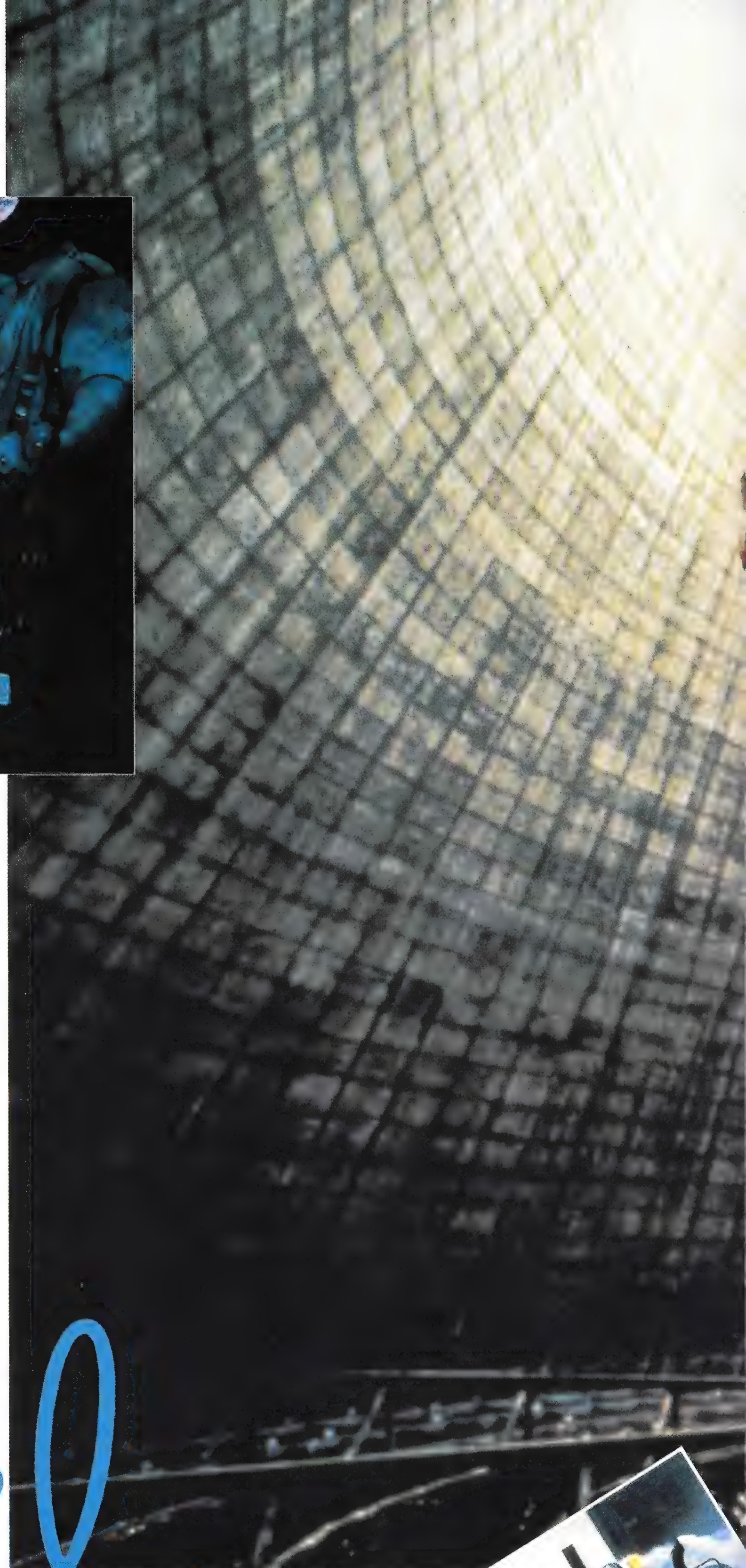








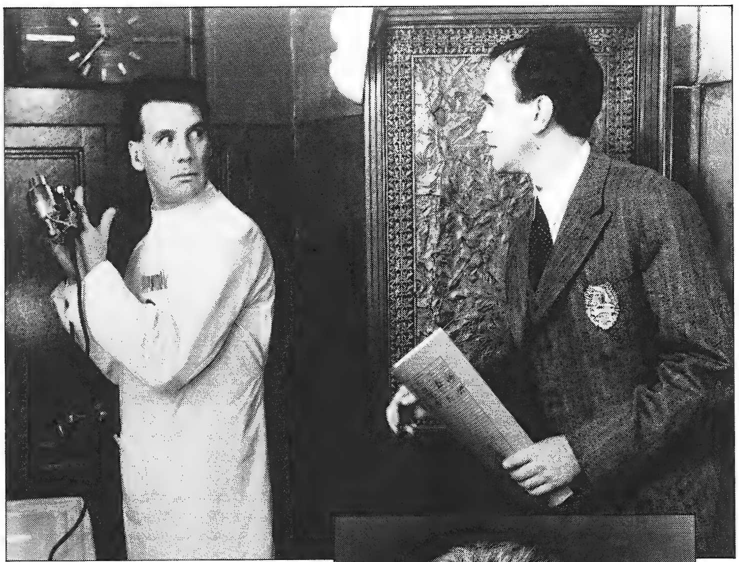


Brazil









ジョナサン・プライス(サム) JONATHAN PRYCE

自由を求めながら，いつしか巨大な情報局のメカニズムと管理体制の中に埋没して去勢手術によって廃人にされてしまうサム・ローリーを，ブラックな笑いをふりまきながら好演するジョナサンは，イギリスのテレビ〝Roger Doesn't Live Here Anymore〟などで，本国では有名な人気もの。

イギリス，北ウェールズのホリーウェルで生まれ育った。高校時代は絵画の道を志したが，学生劇で端役を演じたのが縁となって俳優志望に変更。王立演劇アカデミーに学び演劇の勉強をし，〝Comedians〟の舞台で成功を収めた。この芝居はブロードウェイでマイク・ニコルズの演出で上演され主役をやったジョナサンはトニー賞に輝いた。さらに「ハムレット」でも好演し舞台俳優としての地位は確立された。

映画は〝The Ploughman's Lunch〟〝Something Wicked This Way Comes〟〝Two Weeks in Winter〟があり，日本では「ブレーキング・グラス」で紹介され，その演技でロンドンのイブニング・スタンダード賞の最優秀新人賞を受賞している。

ロバート・デ・ニーロ(タトル) ROBERT DE NIRO

鉛管工の扮装をしたテロリストのタトルを演じ，主人公サムのピンチを助けにきてくれる幻想の中に出現するスーパーマンのカッコよさは最高。

43年8月17日，ニューヨークのロワーイーストサイドで生まれ，ステラ・アドラー，リー・ストラスバーグなどについて演技を学びオフ・ブロードウェイの舞台をへて，ブライアン・デ・パルマ監督の〝Greetings〟で映画デビュー。〝The Wedding Party〟〝Hi! Mom〟「血まみれギャングママ」(TV放映)「生き残るヤツ」などに出演。

74年,「ミーン・ストリート」でマーチン・スコシージ監督との最初のコンビが実現。ニューヨーク批評家賞の主演演技賞を受賞した。「タクシー・ドライバー」「ニューヨーク，ニューヨーク」「レイジング・ブル」(アカデミー主演男優賞受賞)「キング・オブ・コメディ」で名コンビを組んでスーパー，スターの地位を確立した。

CAST
出演者プロフィール



ほかにアカデミー助演男優賞を受賞した「ゴッドファーザー PART II」「ラスト・タイクーン」「1900年」「ディア・ハンター」「告白」「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」「恋におちて」があり，現代最高の演技力を持つスーパー・スターになった。

現代の最前線をいく一流監督が出演を申込み，新作は「キリング・フィールド」のローランド・ジョフェ監督の「ミッション」。

役作りに凝るのは有名で,「レイジング・ブル」では体重を20キロも増やして出演し話題になった。今度の「未来世紀ブラジル」も，みごとな役作りだ。

キム・グライスト(ジル) KIM GREIST

主人公のサムが夢にみるベールをかけた天使のような美しい長いブロンドの美女と，男まさりのトラック運転手ジルの2役を演じるキムは60年コネチカット州スタムフォード生まれのアメリカ人。

17才の時，ニューヨークに出て絵の勉強をし，3年間，スイス，イギリス，ドイツで過ごした。ニューヨークにもどった彼女は絵の勉強をつづけながら演技することに関心を持つようになり，フレディ・ケアマンとケイ・マイケル・パットン，ウィン・ハンドマンなどについて演技を学んだ。

ウェイトレスをしながらの勉強が認められ，〝Chud〟という映画でジョン・ハードの相手役に選ばれてデビュー。「未来世紀ブラジル」は第2作で，この役に選ばれる直前，オフ・ブロードウェイの舞台〝Second Prize—Two Months in Leningrad〟で，亡命を試みるロシア人の役を演じたばかりだった。

「未来世紀ブラジル」は撮影に6ヵ月かかり，その期間，彼女はロンドンに滞在し毎日，スタジオからアパートへ帰る途中，プールで50等身分泳ぎ体調をととのえた。

マイケル・パリン(ジャック) MICHAEL PALIN

主人公のサムの友人で最後は彼を裏切るジャックを演じる。

43年5月5日，ヨークシャー州シェフィールド生まれ。子供の頃から人を笑わせるのが得意で俳優を志した。高校時代には演劇フェスティバルで演技賞を受賞。オックスフォードとブレーズノーズ・カレッジに学び，その頃からロバート・ヘウィソンとコンビを組んでアドリブによるコントを書いた。

オックスフォード大学を卒業後，崇拝したテリー・ジョーンズに出会いドキュメンタリー〝The Love Show〟でコンビを組んで好評を集め，デビッド・フロストに呼ばれテレビの〝The Frost Report〟の台本を書くようになり，マーティ・フェルドマンのための台本を書き，ミュンヘン・テレビ・フェスティバルのジュネス賞などを受賞。テレビのポップ・ショーの司会でも人気者となり，俳優としてテレビにも出演しだした。

69年，エリック・アイドル，テリー・ギリアム，グラハム・チャップマンらとチームを組んで「モンティ・パイソンズ・フライング・サーカス」の最初のシリーズを開始。

このシリーズは劇場映画に発展し「モンティ・パイソン／アンドナウ」「モンティ・パイソン／ホリー・グレイル」「モンティ・パイソン／ライフ・オブ・ブライアン」になり共同で脚本を書き出演もした。アメリカの人気テレビ「サタデー・ナイト・ライブ」にも出演。

長年の友ギリアムの「ジャバーウォッキー」と「バンデットQ」(脚本も書いた）に主演。82年の〝The Missionary〟は製作と脚本もかねて主演。

脚本家として〝The Meaning of Life〟も書き，「エスクァイア」「ニューヨーク・タイムス」などにも寄稿し多才なマルチ・タレントである。

キャサリン・ヘルモンド(サムの母) KATHERINE HELMOND

整形美容狂いのサムの母アイダを演じ全篇にブラックな笑いをふりまく性格女優。アメリカのテレビ・シリーズ『ソープ』で人気のあるコメディエンヌで，このシリーズで四つのエミー賞とゴールデン・グローブ賞を受賞。





テキサスのガルベストン生まれ。ブロードウェイの舞台女優で，72年にはロサンゼルス演劇批評家賞を受賞。

映画は「ファミリー・プロット」「ヒンデンブルグ」に出演。ギリアムの「バンデットQ」にも出演。83年には〝Bankrupt〟では女流監督として初めて演出も手がけた。

テレビではミニ・シリーズの「パール」をはじめ,「ジェーン・ピットマンの伝記」「600万ドルの男」「バイオニック・ジェミー」などにも出演している。

イアン・ホルム(カーツマン) IAN HOLM

サムの上役カーツマンを演じるホルムは，イギリスの生んだ最高の性格派の名優。31年9月12日，エセックス州イルフォードのグッドメイズ生まれ。ロンドンの王立演劇アカデミーを卒業。ロイヤル・シェークスピア・シアターのメンバーで,「オセロ」をはじめ数々のシェークスピア劇で名声を確立。

67年には「帰郷」でニューヨークの舞台に立ちトニー賞の最優秀演技賞を受賞。テレビに多数出演し，代表作は「ホロコースト」。

映画は「フィクサー」「ニコライとアレクサンドラ」「クイーン・メリー／愛と悲しみの生涯」「戦争と冒険」「ジャガー・ノート」「ナザレのイエス」「エイリアン」，アカデミー助演候補になった「炎のランナー」「グレイストーク」「バンデットQ」などがある。

ボブ・ホスキンズ(鉛管工スプーア) BOB HOSKINS

政府の鉛管修理工のスプーアを演じる。イギリスではテレビのヒット・コメディ・シリーズ〝Thick as Thieves〟で人気のあるスター。

25才の時から役者の世界に入りジョン・ギールグッド共演の舞台〝Veterans〟などで認められた。

映画は「ローヤル・フラッシュ」などに出演。アメリカ映画に招かれて「ピンク・フロイド／ザ・ウォール」「コットン・クラブ」に出演したがどちらもマネージャー役だった。

ほかに〝Insert〟〝Hickers〟〝Pennies From Heaven〟〝Zulu Dawn〟〝The Long Good Friday〟などがある。





PRODUC

テリー・ギリアムは語る これは明朗な悪夢の映画だ

『誰かが石炭がらで真っ黒になった裸の浜辺に腰かけていると，コンベア・ベルトや醜い鉄の塔のむこうには緑あふれる素晴らしい世界がきっとどこかにあるって，現実から逃避するようなラジオからのロマンチックな歌がどこからとなく聞こえてくる――そんなイメージが僕にはあったんです。そのイメージからこのストーリーは発展したものなのに，全くかけ離れたものになりました。

そういう姿勢がこの映画にはいまだにあるんです。大部分がそこだと言っていいでしょう』『みんないつの間にか笑っている自分に気がついて，「いや待てよ，これは笑っちゃいけない，恐ろしいことなんだ」と，急に気づくのです。フランスで流行りの言葉に「回想する未来」というのがあってそれは過去を通して未来を見る，いわば現在の別の面を露わにする物の見方なのです。

これは，若くてうだつのあがらない男と彼に恋をする女が，自分たちの力では全くどうにもならない局面にぶち当たって行く様を描いた抱腹絶倒の映画，ひいては，明朗な悪夢なんです。我々の目的は人生を楽しませる映画を作ることでした』

ロンドンのドックランドにある空き家になった製粉所で撮影が行なわれたが，1930年代の波止場にあったような工業建築物の残骸であるその15階建ての建物は，製作者たちによって60年代に建てられた住宅団地――しかもそれが密集しすぎと手入れの悪さのためいまや目障りな存在となっている――に見えるように衣替えされた。

これがなんと〝地上の楽園〟と名づけられていたのはお笑いだが，このビルの上の階を衣替えして，ギリアムが描く官僚主義社会の情報局という事務用施設にしたのだが，ここの効果もまたおかしいと同時に笑うに笑えないものだった。

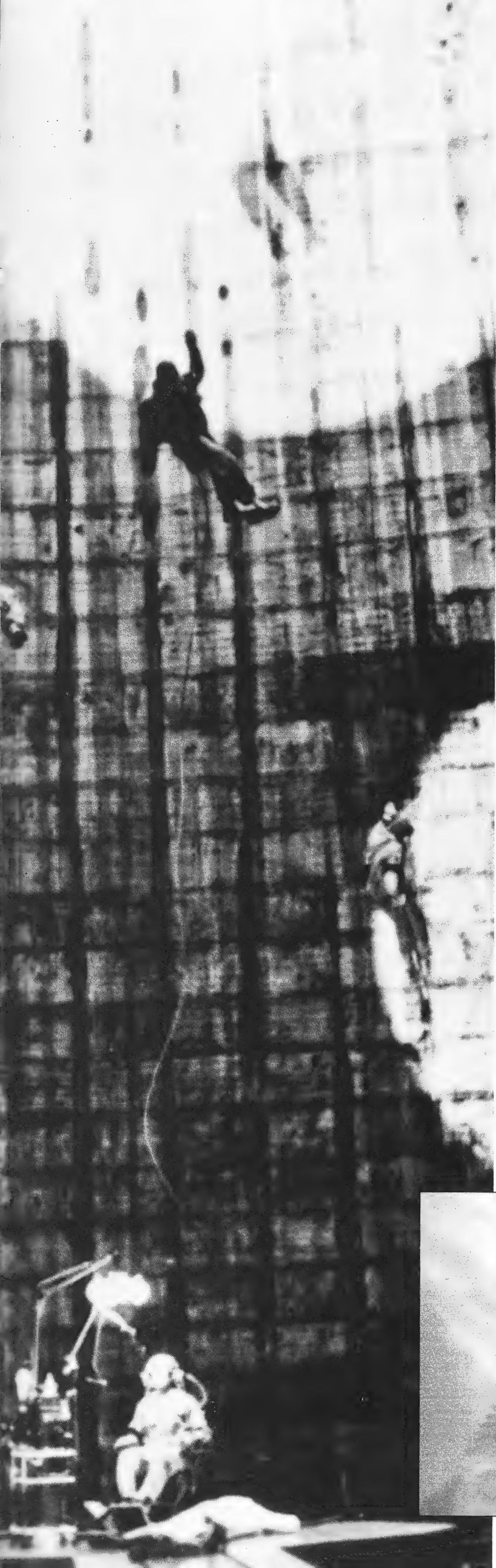
百人近くのエキストラにお呼びがかかり，同じようなくすんだ灰色のスーツを着た若者たちが，ビデオのコンソールやテレックスや書類転送用の空気チューブに囲まれた中で書類やファイルの整理に追われている。物々しい設備にもかかわらず作業は単調で，非能率的に見え，そんな作業が一点の疑いも持たない市民の生き死にを紛れなく左右しているのだ。一台の優秀なコンピューターがあれば全員の仕事がなくなってしまう。しかしここにもギリアムの未来に対する視点がある。まるでタイム・スリップでもしたかのように，どこかが狂い出してるかのように，刷新の手順が完成することは決してないのである。それどころか本末転倒してしまっている。おかしいが，同時に身につまされるのだ。

『何か崇高なことを表現しているとしたら，僕にはそうとも思えないんだけど，それは人間は難局に当たっても頑張り通すだろうってことですね』とギリアムは語る。『たとえ建築物が気を滅入らすものだとしても，人間はそうじゃない。だからこれは没個性化，非人間化のしかつめらしい物語じゃあないんです。どんなことがあろうと，人間は自分の個性に必死にしがみついて行くでしょう。何とかうまくやって行くんです。誰もが浮かぬ顔でうろうろしているわけじゃありませんよ』





TION NOTE



ジョナサン・プライスは語る

サムは受身だから危険な人物だ

『サムは新しい社会の犠牲者であります。彼はテロリストでもアウトサイダーでもない，体制側の人間です。目立たなければそれで安心なのです。愛すべき人間であると同時に，受身であるがゆえに危険な人物でもあります。自分が自分の働く社会の犠牲者であることに気づくのは，ずっと後になってからのことなのです。反体制側の娘と恋するようになって以後です』

映画に出てくるような空恐ろしい社会がやがて本当にやってくるのだろうか？という質問に，最近ＢＢＣのニュース室で数日間を過したことのある彼は編集の仕方いかんによって何百万という人々の考えに影響を与えられることを肌で感じ，そういうことはすでに起こりつつあると考えている。

キム・グライストは語る

サムとの出会いはジルにもショック

『ある日突然，ジルは組織の不正に真っ向うから対決します。不正が自分の居間にまで忍び寄り，それに従って動くしかない時でもその理由を追求したりはしていません…。ここで描かれる世界は，かなりソビエト的な社会です。繰り返し出てくるテーマは「我々はみな運命共同体だ」です。まるで不穏な動きがないかどうかモニターされている囚人のごとく，人々は閉じこめられているんです。その壁は目には見えないけれど，それだからこそ息がつまるんですね。彼らはまるで馬車馬のように全体を見通すことはできません。しかし，(サムやジルのように）むしろ探し求めたんではなくて，たまたま出くわした人間にも，真実は常に手に入れることができるんです…。

サムは政府の手先でした。完全な体制側の人間でした。彼には自分の夢が一体何なのか分かりませんでした。それがジルと出会ってから，注意するようになったんです。サムの夢が求めていたものはやさしい女らしさでした。しかし，それは本物とトラック運転手のジルとは似ても似つかないものでした。たとえ顔はそっくりでもです。彼にとってもショックですが，ジルが最後には彼に心を許すようになると，彼女にとってもそれはショックだったのです』──





ウォルター・ミティッシュ（あるいはミティエスク）という言葉がある。映画でいえばダニイ・ケイ主演の「虹を摑む男」(47年)，その原作であるジェームズ・サーバーの短編小説「ウォルター・ミティの秘密の生活」から生まれた言葉だ。この主人公ウォルター・ミティは空想にふけって自分を英雄に仕立てることから，そういう人間をウォルター・ミティッシュと呼ぶのである。

「未世紀ブラジル」の主人公サム・ローリーはまさにそんな男だ。彼の白昼夢の中では恋の歌「ブラジル」のメロディが流れ，スーパーマンのように空を飛ぶ。恋人を探し求め，恋人のために空を飛ぶ。行手に悪漢が立ちはだかれば，勇敢に挑戦していく。

この「ブラジル」は1939年頃にブラジルで生まれ，40年前後にアメリカで大ヒットしたサンバ調の曲である。ディズニーの「ラテン・アメリカの旅」(43年）や「ブラジル」(44年)，「ジャム・セッション」(日本未公開・44年）といった映画に取り入れられているそうだが，それらの映画は見た記憶がないにもかかわらず，この曲に懐かしさを覚えるのは，恋の歌としてスタンダード・ナンバーになっているからだろう。

サムが白昼夢にふける原因は，フロイトならずともかんたんにわかる。現実が面白くないからだ。この現実は個人の情報がすべて登録され，何者かに支配されている管理社会，全体主義社会である。亡き大臣と整形美容に熱中している母親との間に生まれたサムは情報記録局の役人だ。出世なんかに興味はなく，暗くニヒルに平々凡々の生活をしている。

情報局のオフィスは，突き当たりに主任の部屋があり，その手前で職員たちが働いている。服はドブネズミよろしく，室内全体も灰色っぽい。彼らは中古のタイプライターの上に薄っぺらなモニターをのせたようなパソコン端末機に文字情報や画像を呼びだして面白くなさそうに仕事をしている。小役人根性まるだしの主任が見ていないときにはモニターに映画を映しだして楽しむ。

ここにある未来社会はOAショーで見るような明かるく，整然としたバラ色の世界ではない。薄暗く，混沌とし，人々が無気力になるかおびえているかしている灰色の未来である。世紀末的な未来図とでもいおうか。

一昨年映画化もされたジョージ・オーウェルの「1984年」とちょっと似ているなと思ったりする。書物がすべて焼き捨てられる未来社会を描いたレイ・ブラッドベリー原作，フワンソワ・トリュフォー監督の「華氏451」(66年）を思い出す人もいよう。あるいは思考構造が符合化されている星雲都市を舞台にしたジャン=リュック・ゴダール監督の「アルファヴィル」(65年)，さらにまた1927年のフリッツ・ラング監督のサイレント映画で2年前にジョルジオ・モローダーの音と色つきでよみがえった「メトロポリス」……。

それらの完全管理化された全体主義あるいは独裁国家の《悲劇的未来社会》の物語では，主人公は自由を求めて脱出しようとこころみるか権威と対決する。「未来世紀ブラジル」では主人公はウォルター・ミティのように恋人と超人の白昼夢に逃れ，やがては現実の冒険へとひっぱりだされる。

サムの前に夢の中の美女が現実にあらわれ，夢中になってしまうところもミティと同じようだ。その女ジル・レイトンはトラックの運転手であるが，保安警察からつけ狙われている身だ。保安警察は

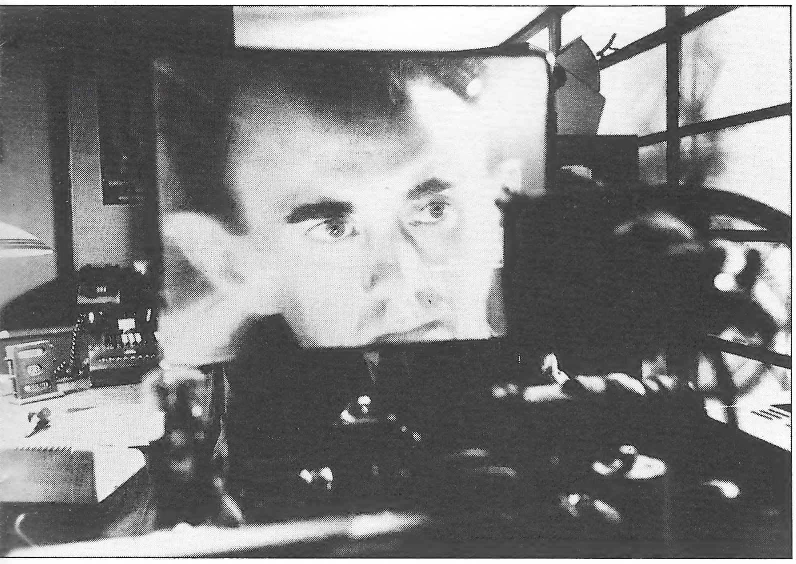


筈見

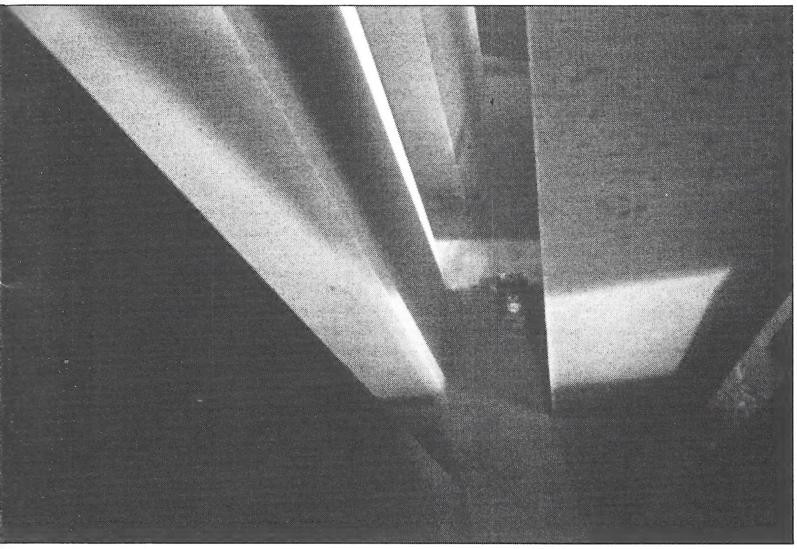


「未来世紀ブラジル」





有弘



の奇妙な面白さ



反体制のテロリストであるタトルを追っているが，警察は名前のよく似た罪もない男バトルを逮捕してしまい，ジルはその目撃者だったというわけだ。

ロバート・デ・ニーロが楽しみながら演じているかのようなタトルはまるで忍者のようである。じっさい，サムの住む高層アパートの上の方から下へロープを渡し，スウーッと降りて行ったりする。

アパートの壁の内側には無数の管がとおり，人間の内臓のように動き，それがこのアパートのいろいろな機能をになっているのだが，政府から派遣された修理人スプアーと相棒はサムに疑いをもっているから，その管を壁からとりだし，めちゃめちゃにしてしまう。すると，タトルは下水の管を接続させて，スプアーたちを糞尿ぜめにする。「コットンクラブ」でギャング役をやっていたボブ・ホプキンズは文字どおりクサい演技を見せる。

サムが，ジルを救うために昇進を受け入れざるを得なくなり，情報剝奪局へ転じてからの，その情報剝奪局というのがまた不気味だ。入口のホールには一段高いところに，えらそうな面構えの守衛がひかえているが，あとは人っ気が感じられない。しかし，教えられたフロアでエレベーターを降りると，ずっと向うの廊下を局長と局員たちが歩いてくる。地下では奴隷のように働かされている者がいる。ブラック・ユーモア風な描写をとりいれ，およそ生気というものの感じられない全体主義社会，管理社会のおそろしさをつたえていく。

さまざまな冒険ののち，捕えられサムは円形の競技場のような建物の，宙に浮かぶ先っぽのところで死の拷問を受けることになるが，そこへタトルが仲間を引き連れてあらわれ，サムを救出する。それからがまた面白いのだが，しかし結末は暗く，悲しい。

この作品の演出家はイギリスのコメディ・グループ，モンティ・パイソン映画のテリー・ギリアムである。ギリアム自身はじつはアメリカ人であるが，国籍はこのさいどうでもいいだろう。「モンティ・パイソン・アンド・ホーリー・グレイル」「ジャバウォッキー」「ライフ・オブ・ブライアン」「バンデットQ」「ミーニング・オブ・ライフ」などがギリアムの演出作品だ。

モンティ・パイソン映画にはかなり知的なジョークがちりばめられている。こちらの教養，知識，語学力などの足りなさによって，残念ながら笑えきれないところがある。ちょっとイライラした気分にさせられたりもする。また，ギリアムの方でも小手先で勝負しているような場合もあったが，「未来世紀ブラジル」ではそこのところの笑いの術をかなり磨き上げているし，笑いと恐怖を一体化させているし，それにこの演出家の，現実にある日常的な風景を未来都市に変えてしまうといった映像造形の才能にも感心した。

ギリアムが，トム・ストッパードとチャールズ・マッケオンに共同で脚本を執筆してもらっていることも，この作品の大きなパワーとなっている。ストッパードは「ローゼンクランツとギルデンスターンが死んだ」「ほんとうのハウンド警部」などによって知られる現代イギリスの代表的な劇作家であるが，前者は「ハムレット」，後者は推理物の，一見パロディのような形式をとりながら，笑いの奥から不条理な怖さを浮かびあがらせるところにこの劇作家の面白さ，凄さがあるのだ。



スタッフ

監督	テリー・ギリアム
製作	アーノン・ミルチャン
脚本	テリー・ギリアム トム・ストッパード チャールズ・マッキオン
撮影	ロジャー・プラット
編集	ジュリアン・ドイル
音楽	マイケル・ケイメン
プロダクション・デザイン	ノーマン・ガーウッド
特殊効果監修	ジョージ・ギブス
模型効果監修	リチャード・コンウェイ
衣裳デザイン	ジェームズ・エイクスン
ヘア／メーキャップ・デザイナー	マギー・ウェストン
美術	ジョン・ベアード キース・ペイン

キャスト

サム・ローリー	ジョナサン・プライス
タトル	ロバート・デ・ニーロ
アイダ・ローリー夫人	キャサリン・ヘルモンド
カーツマン氏	イアン・ホルム
スプーア	ボブ・ホスキンズ
ジャック・リント	マイケル・パリン
ウォーレン氏	イアン・リチャードソン
ヘルプマン氏	ピーター・ボーン
ジル・レイトン	キム・グライスト
ジャフィ医師	ジム・ブロードベント
ライム	チャールズ・マッキオン
テレン夫人	バーバラ・ヒックス



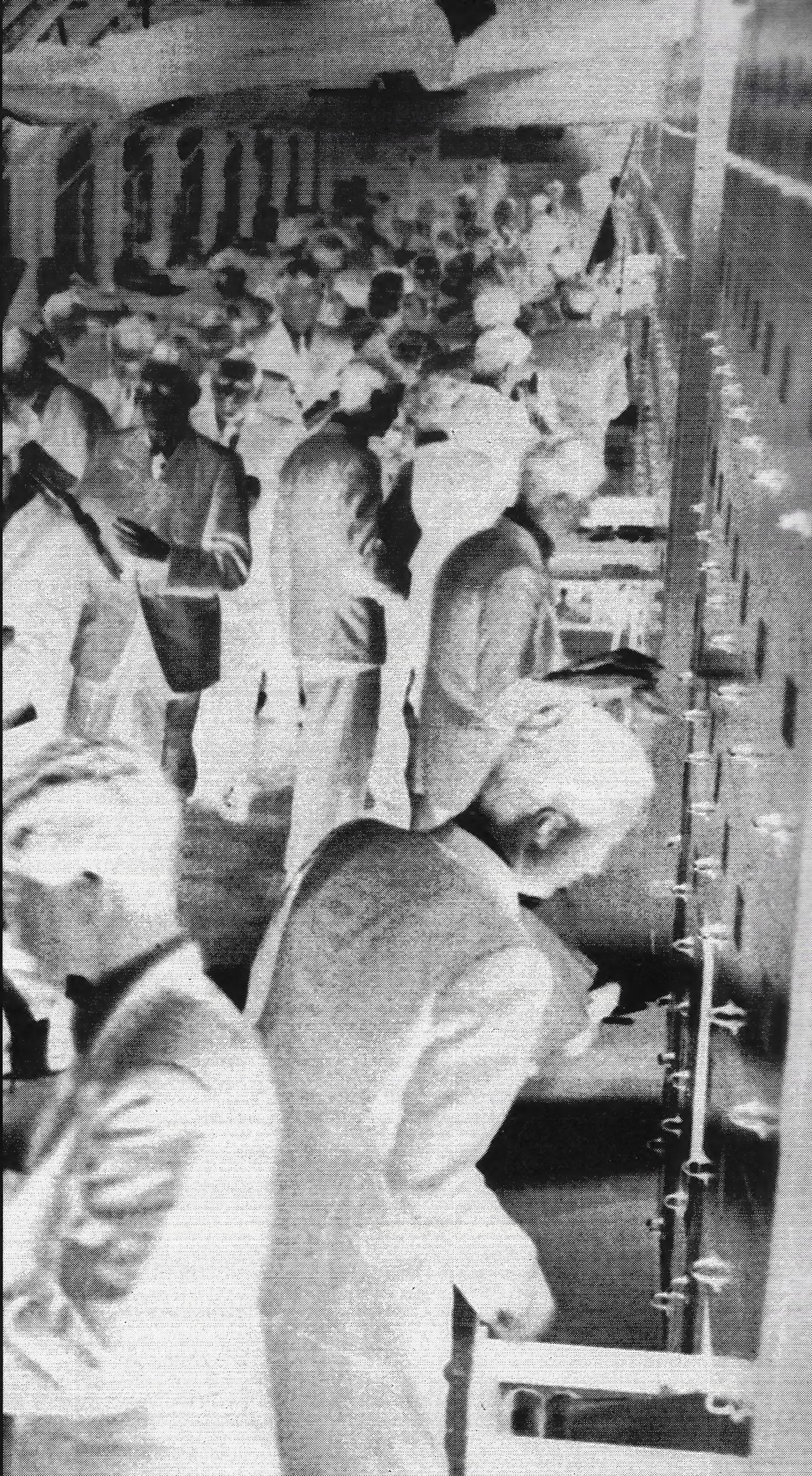


STAFF

Directed by······TERRY GILLIAM
Produced by······ARNON MILCHAN
Screenplay by······TERRY GILLIAM
TOM STOPPARD
CHARLES McKEOWN
Director of Photography······ROGER PRATT
Editor······JULIAN DOYLE
Original Music by······MICHAEL KAMEN
Production Designer······NORMAN GARWOOD
Special Effects Supervisor······GEORGE GIBBS
Model Effects Supervisor······RICHARD CONWAY
Costume Designer······JAMES ACHESON
Hair & Make-up Designer······MAGGIE WESTON
Art Directors······JOHN BEARD
KEITH PAIN

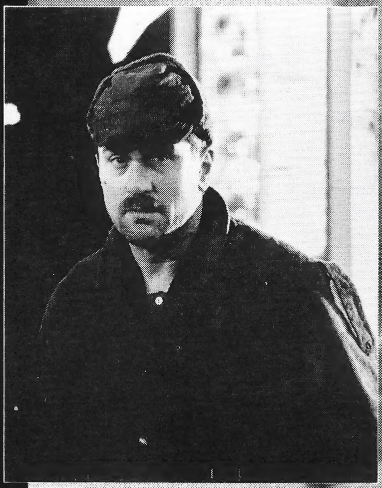
CAST

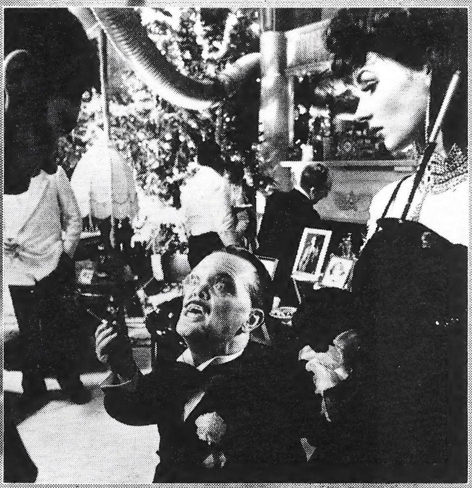
Sam Lowry······JONATHAN PRYCE
Tuttle······ROBERT DE NIRO
Mrs. Ida Lowry······KATHERINE HELMOND
Mr. Kurtzman······IAN HOLM
Spoor······BOB HOSKINS
Jack Lint······MICHAEL PALIN
Mr. Warrenn······IAN RICHARDSON
Mr. Helpman······PETER VAUGHAN
Jill Layton······KIM GREIST
Dr. Jaffe······JIM BROADBENT
Lime······CHARLES McKEOWN
Mrs. Terrain······BARBARA HICKS





Brazil

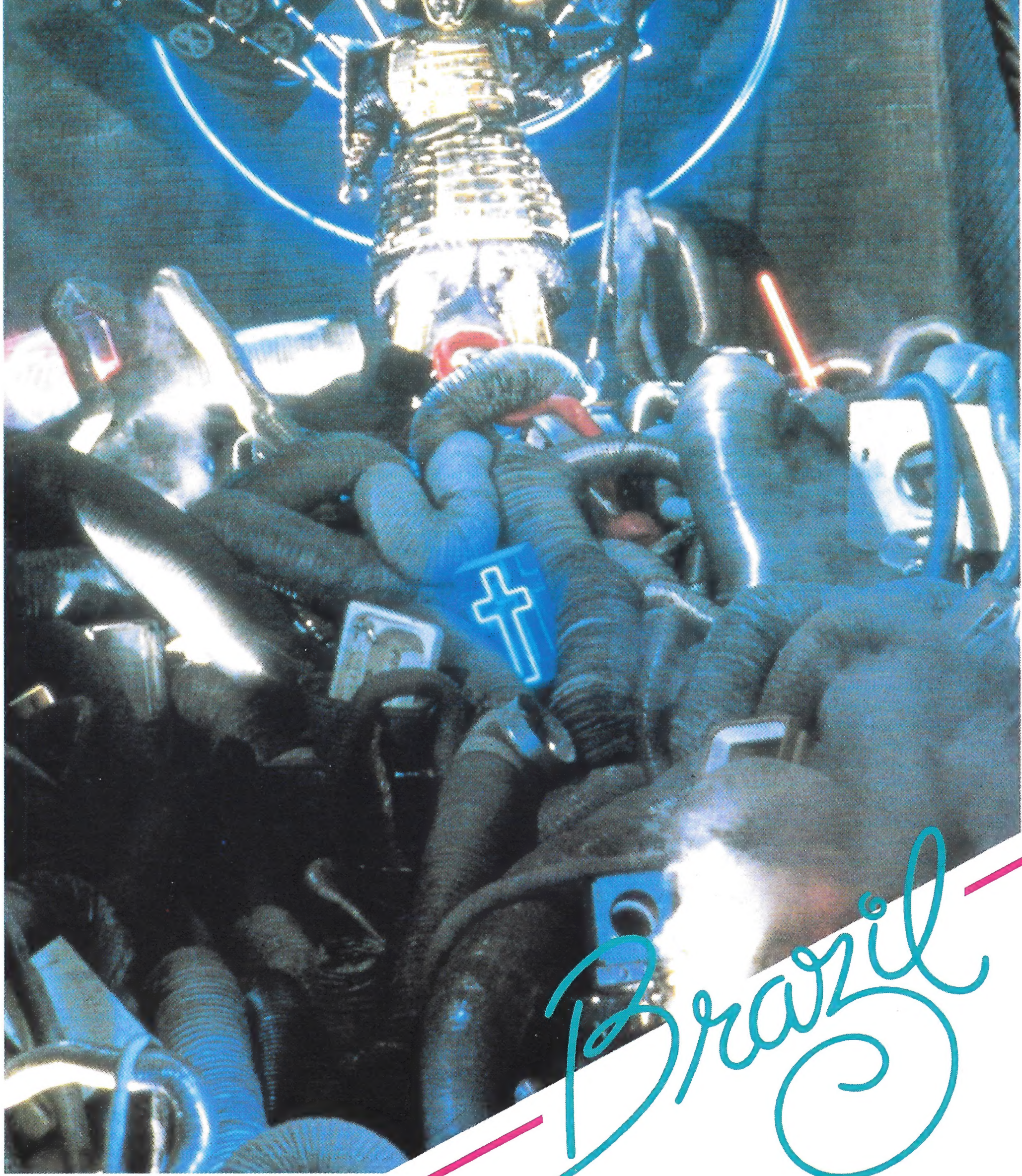




定価 300円

昭和61年10月 3 日印刷
昭和61年10月 4 日発行
発 行 所　東京都千代田区有楽町1—2—1　東宝 出版・商品販促室
発 行 者　東京都千代田区有楽町1—2—1・大　橋　雄　吉

印 刷 所　東京都港区芝2—1—28　成旺印刷株式会社



Brazil

20th CENTURY FOX ™ 東宝